

女性がより生きやすい社会を

長野県上田染谷丘高校1年1組 宮入千鶴

この課題に関わる SDGsの番号

ジェンダーの平等を達成し、
すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



10代からの提言

- ・男性も女性も、生理痛に対する理解をきちんとし、女性が会社や学校で我慢しすぎず休めるようにすべきだ。
- ・休みづらい雰囲気改善したい。

テーマ設定の理由

- ・友達が我慢して学校にきていて、中にはとても具合が悪そうなのに「毎月は休めない。」と悲しそうな子もいたから。
 - ・私自身休みづらいのがとても苦痛だから。
 - ・同じ女性でも理解してもらえないことがあるから。
-
-

現状

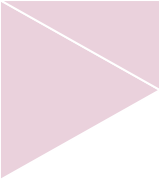
- ・薬を飲めば大丈夫だと思われてしまうことも。
- ・先生や上司が男性だと言いつらい。また、立場が上の人から理解が得られないとつらい。
- ・男性や生理痛が軽い女性から理解されず、本当は休みたくても無理をしてしまったり、周りに合わせてしまったりして、休みづらい雰囲気がある。
- ・同じ女性でも人によってつらさは違うこと、PMS（月経前症候群）があることなどが教えられないため、知らない人が多い。
- ・生理休暇が取得しづらい。学校だと、出席日数の関係、部活動、テストなどで休めないと感じる。

課題

- ・薬は飲めば良いなんてものではない。つらさは人それぞれなので、周りの人が決めつけてしまわないようにするべきだ。
- ・一番の問題である”言いづらい”をなくすために、学校での性教育を見直す必要がある。
- ・恥ずかしいことではない、という意識が足りないと感じる。
- ・生理休暇の基準があやふやな上、症状が著しく重い人しか利用できない。
- ・学校には生理休暇のような制度が一切ない。

解決策

- ・義務教育の期間中の性教育で、“生理があります”だけでなく、PMSのことや、生理痛のこと、人によって違うことを全員にきちんと教える。男性のことも同じ。
- ・”恥ずかしい”と感じるのは、学校で子供を産むためだとして教えられなかったからではないか。他の言い方に変えてほしい。
- ・症状が著しく重い病気などでなくても、つらければ休めるように法律を改善すれば、女性はとても働きやすくなる。
- ・学校など教育の場所でも生理休暇の導入をするべきだ。



感想

- ・法律を変えなければ問題が解決されないということは、これは大きな問題なのではないかと思った。
- ・ジェンダーの平等を実現するには、多様な人々がお互いに歩み寄ることが大切だと改めて感じた。
- ・人の心に寄り添える人間でありたいと思う。